第４号　令和８年４月２７日

校長室より

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

二松学舎大学附属高等学校
校長　鵜飼敦之

日々アップデート
～教員授業観察始めました～

今年度の入学生から、本校では教育課程の一部を見直しました。教育課程とは、二松学舎での３年間にわたる学びの設計図であり、どの学年でどの科目を、どの程度の時間をかけて学ぶのかを定めた教育のプログラムです。文部科学省が約 10 年ごとに改訂する『学習指導要領』を踏まえながら、本校でも時代の要請に応じてその内容を整えてきました。次の改訂が視野に入る中、今回は、より実態に即した形での調整、いわば“マイナーチェンジ”を行ったものです。

しかし、教育課程はあくまで枠組みに過ぎません。本当に大切なのは、その中で展開される日々の授業です。社会の変化は刻々と進み、生徒の興味・関心や学びのスタイルも大きく変わっています。だからこそ、授業もまた常に更新され続けるべきものです。

その一環として、今年も校長による授業観察をスタートしました。各教科の先生方が工夫を凝らした授業を直接拝見し、その実践を共有することで、学校全体の授業力の底上げにつなげていきたいと考えています。

実際の授業では、ICT 機器を活用した資料提示やメタモジを活用したリアルタイムでの意見集約、生徒同士の対話を重視した「学びあい・教えあい」の場面、さらには発表機会の充実など、多様な取組が見られます。また、入試問題を素材として扱うことで、学びが将来とどのようにつながるのかを意識させる工夫もなされています。

共通しているのは、「生徒が主体的に考え、判断し、行動し、表現する」力を育てようという姿勢です。教師が一方的に教えるだけでなく、生徒が自ら学びを構築していく授業へ。その実現に向け、先生方は日々試行錯誤を重ねています。

本校はこれからも「日々アップデート」を目指し、よりよい教育の実現に向けて歩みを進めてまいります。

女子バスケットボール部春季大会
～３回戦で敗退　インターハイに期す～

春季大会において、ここまで順調に２勝を挙げてきた女子バスケットボール部は、３回戦で国学院高校と対戦しました。さらなる上位進出をかけた一戦でしたが、惜しくも敗退という結果となりました。

第１ピリオド、試合は相手の素早い展開に主導権を握られる苦しい立ち上がりとなりました。厳しいディフェンスによってパスコースを封じられ、攻撃のリズムを作れない中、相手には３ポイントシュートを効果的に決められ、６対 34 と大きくリードを許します。

それでも、第２・第３ピリオドにかけて、選手たちは徐々に試合の流れに適応していきました。粘り強い守備と積極的な攻撃で得点を重ね、こちらも３ポイントシュートが決まり始めるなど、互角の展開に持ち込みます。コート上では最後まで諦めない姿勢が随所に見られ、チームとしての成長が感じられる時間帯となりました。

しかし、最終ピリオドでは再び相手の勢いに押し切られ、最終スコアは 54 対 88。敗戦は悔しさの残る結果となりました。それでも、この大会で積み重ねた経験は決して無駄にはなりません。強豪校との対戦を通じて見えた課題と手応えは、次への大きな糧となるはずです。次なる目標はインターハイ予選。今回の悔しさを胸に、さらなる飛躍を期待しています。

なお、当日は多摩地区西部の会場で第１試合という早朝からの試合にもかかわらず、多くの保護者の皆さまにご来場いただき、温かいご声援を賜りました。心より御礼申し上げます。